

6 年 1 組

野菜・味噌・ひと とのかかわりの中で わたしを見つめていく子ども



自分たちでやっている「実感」

今年度の中核活動をどうするか。4月、子どもたちと一緒に頭を悩ませました。去年取り組んできた野菜づくりを今年もやったらどうかという意見が出ると「去年と一緒にはいやだ。新しいことに挑戦しなきゃ意味がない」と言ったAさん。その一声から、みんなで「新しいことへの挑戦」を考え、意見を出し合いました。そんな中で、私が子どもたちとの生活の中で目に留まったのが、1年生とのお花見給食の時の姿でした。それまでの2年間では見たことのないような、1年生への眼差し、声がけ、そして笑顔。「下級生と関わると、こんな表情になるんだ」と、子どもたちの新たな可能性を感じました。そこで「1年生や全校、もっといろんな人と関わりながら野菜づくりやその加工をしていくのはどうか」と提案すると、「それいいね」「おもしろそう」とAさんもクラスの子たちも意見が一致し、今年度の中核活動がスタートしていきました。



GWが明け、去年あまりうまくいかなかった野菜づくりの反省点を振り返りました。そこでは「水やりや草取りをさぼってしまった」「肥料をちゃんとあげずにやってしまった」といった声がありました。自分たちで活動してきたようで、どこか人任せになっていた自分がいたのではないかと感じた私は、野菜づくりに必要なものを自分たちでの手で準備するために、近くのホームセンターへ出かけることを提案しました。すると子どもたちは「行きたい」と即決し、すぐ買い物の計画を立てました。ホームセンターへ行くと、どの苗にしようか真剣に選ぶ子どもたち。様々な種類が売られているトマトの苗から、どの苗が良さそうか友と相談するAさんたち。去年の反省を生かして肥料にも関心を持ち「これでいいかな。これで足りるかな」と

友と相談しているBさんたち。時間いっぱいまで店内を歩き回り、必要な物を探す子どもたち。「大切に育てたい」という願いがあるからこそ、子どもたちに妥協はありませんでした。学校のリヤカー2台を出動させ、荷台いっぱいの荷物を協力して運び、無事に学校までたどり着くことができました。歩き疲れているし、下校時刻も近いので、下校にしようかと思っていたら、畑に着くなり早速作業に取り掛かるDさん。その日のEさんの日記の中にあった「自分たちで準備するからこそワクワクするし、“自分たちでやっている”と実感できる」が、全てを物語っているなど感じた1日でした。

【Cさんの日記より】

今日の5, 6時間目の総合でホームセンターへ買い物に行きました。ぼくはかぼちゃの班なので、苗やぽかぽかキャップや石灰などを買いました。ほしかった物は全部買えたので良かったです。(中略) 学校に帰ってから少し時間があつたので、畝に石灰をまいて耕す作業をしました。約1週間経って、苗を植えるのが今からとても楽しみです。





5月下旬、子どもたちと前々から計画していた1年生とのサツマイモの苗植えをしました。ゆくゆくは収穫したサツマイモで「1年生と焼き芋会をしたい」という子どもたちの願いから生まれた活動でした。サツマイモグループからのリクエストで、紅はるか・栗かぐや・ふくむらさきの3種類の苗を用意しました。授業の始めに、3種類の芋の特徴や、植え方による芋の育ち方を紹介し、6年生と1年生のペアで相談して決めるように伝えました。するとすぐに「どれにする？どうやって植えたい？」とペアの子に声をかける6年生の姿。素敵だなと思ったのは、ペアの子に話しかける眼差しです。相手がこちらを向いていないとしても、自分から眼差しを向ける姿に、「思い」を向けて伝

えたり聴いたりしようとする気持ちを感じました。こんな素敵な眼差しを向けてもらった1年生は、きっと温かい気持ちになったと思います。そしてこうした体験が、いつの日か自分が6年生になった時に生きていくのだらうと思います。本当に素敵な瞬間でした。

翌朝、サツマイモの苗の様子を、ペアの子と一緒に見に行きました。「大きくなるかなあ」と心配そうに見ている1年生に、優しく「大きくなるよ！」とDさんが声を掛けると、大喜びする1年生。見ているこちらが、温かい気持ちになりました。水やりと観察が終わったところで教室に戻ろうとすると、ペアの子を教室まで送ろうと、そっと背中に手を当てて一緒に歩くEさんの姿に目が留まりました。Eさんは初め、今回の1年生との交流活動に疑問を感じて「どうして1年生とやるの」と、私に尋ねにくることがありました。しかし、ペアの子と出会い、苗を植えたり、水やりをしたりする体験を通して、少しずつかもしれませんが、Eさんの中での変化が起きているように私は感じました。「1年生に優しくしようね！」という言葉だけでは決して学べないことが、Eさんのように体験を通して実感を伴いながら学んでいるのではないかと感じる姿でした。そして、そのEさんの姿を見れたことが、私自身、本当に嬉しかったです。これからも、毎日とはいきませんが、定期的に1年生と畑の様子を見に行ったりお世話したりしていく予定です。また、少しでも時間があれば「一緒に鬼ごっこやろう！」と声を掛けている6年生の子どもたちの姿を見ていると、「遊び」を通した交流活動もやっていけそうです。これからの色々な体験が、子どもの多くの学びにつながっていきそうです。



6月に入ると、今年は天候にも恵まれて、どんどんと野菜が生長していきました。そんな中で、スイカを育てていたFさんたちは、不安を募らせていました。「どうしたら受粉して実がなるんだろう」「これからどうやって育てていけばいいのかな」と分からないことが出てきたのです。「インターネットとかで調べてみたら」と私が伝え、

「もう調べたんだけど、よく分からなくて」と話していました。そこで、庁務員の中村先生がご自宅でスイカをたくさん育てられていることをFさん達に伝えると「(自分たちのスイカを)見てもらって教えてもらいたい」と話しました。そこで、中村先生との出会いの場を作ることになりました。中村先生の一言一言に熱心に聴こうとするFさん達。「つるがだいぶ伸びてきてしまっているの、摘心をしないとイケないね」と、やり方を教えてもらい、実際にやるFさん達。中村先生との出会いが、Fさんをはじめスイカグループの子どもたちにとって大きな励みとなり、活力となっていきました。その後も、毎日のようにスイカの様子を見に行くFさんたち。「ひと」との出会いの大切さを、Fさんの姿から改めて感じさせてもらった瞬間でした。

